

文 学 部

人 類 学 科

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12101	人類学概論 A I	必	1	2	前期	山 田 隆 治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 人間の生存の仕方の特徴を人類学の視点から考えるという全体テーマを設定し、考察の過程で人類学の基礎的概念、知識、考え方を習得させる。A I は生物界との連続性を踏まえた上での人間生存手段の特徴に焦点を置く。

【講義計画】 毎回具体的なテーマを上げて考察し次のテーマへ連続させるやり方で進める。一冊で講義の全体をカバーするような適切な参考書はないからテキストは使用しない。代りに要点を板書し、ノートさせる。予定している主な個別的テーマは次の通り：オーストラロピテクス、ヒト化の過程、融通性の増大、最大量の学習知識、人間特有の成長型、子供は神の子、ゼロからの学習、間接経験と知識、シンボルと経験の再現、共通の世界、外界のモデル

【評価方法】 授業で提供した資料に基づく小論文を試験時間内に作成させ、資料の理解度とまとめ方にポイントを置いた評価を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12111	人類学概論 A II	必	1	2	後期	山 田 隆 治
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 人間の生存の仕方の特徴を人類学の視点から考えるという全体テーマを設定し、考察の過程で人類学の基礎的概念、知識、考え方を習得させる。A II は A I を踏まえた上で生存手段としての文化（知識としての行動様式と外的世界）の性質がもたらしている人間生活の特徴に焦点を置く。

【講義計画】 毎回具体的なテーマを上げて考察し次のテーマへ連続させるやり方で進める。一冊で講義の全体をカバーするような適切な参考書はないからテキストは使用しない。代りに要点を板書し、ノートさせる。予定している主な個別的テーマは次の通り：民族分類体系、オジ・オバ・イトコ、身内と他人、日暮時は魔が通る、モデルの区画性、予想と予想外、モデルの一般性、不可能への挑戦、呪術の世界、神霊への依存、超自然的適応

【評価方法】 授業で提供した資料に基づく小論文を試験時間内に作成させ、資料の理解度とまとめ方にポイントを置いた評価を行う。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12121 12131	人類学概論 B I ・ B II	必	1	各2	前期 後期	重 松 和 男
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 人類学における歴史的な側面を考える手段としての考古学の研究方法を説明する。入門講義であるから、文献からではなく“もの”を媒介として歴史を考えることについての理解を目指す。

【評価方法】 筆記試験。出席重視。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12141 12142	人類学基礎演習A・B	必	1	各4	通 年	坂 井 信 三 早 川 正 一
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 民族系の場合：文化人類学という学問の知識は三つの層から形成されている。第1は一人ひとりの人類学者がフィールドで出会う直接の経験。第2はその個別的な経験を、他の人類学者と共有できるような形で表明した「民族誌」。そして第3に、「民族誌」を素材にして、様々な立場、様々な観点から議論をたたかわせて形成される「理論」である。文化人類学は、これら三つの層を往復しながら、社会・文化現象を総体的に解明しようとする知的な運動であるといつてよい。

これから4年間にわたって文化人類学を学んでいくためには、これら三つの層のちがいを意識しながら論文を読み、あるいは講義を聞くことが必要になる。

したがって基礎ゼミでは、論文を読む技術を身につけることを中心に、あわせて、2年次からはじまる演習への導入として、資料を収集し、読み、内容をまとめ、自分の見解をつけて発表する技術を学ぶことを目的とする。

考古系の場合：文化人類学に隣接する考古学・歴史学・民具学・博物館学・文化財学・美術史などは、主体的に扱う「物質」とか「遺品」のような研究資料をもとに勉強しなければならない。したがって、現代に近い時代の品物ほど新鮮で保存状態も良好であるが、逆に古代や原始にさかのぼる遠古の時代のものほど保存状態は悪く、多くは遺存体でしかない。つまり、研究や解明のためには細心の配慮と慎重な考察を必要とする。

いずれにしても、そうした専門分野の勉強を進展させるためには、基礎ゼミにおいて基本的ないくつかの概念とそれに関連する必要不可欠な専門用語の習得と理解を前提とするので、広く世界的視野を求めた英文のテキストを材料にして人類学科生としての第一歩を踏み出させたい。

【講義計画】 テキストを用いて、はじめは教員が読み方の指導をし、時期を見て個人あるいはグループでの発表をしてもらう。各自が積極的に発言して、討論を活性化させてほしい。

【評価方法】 授業への参加の態度を評価して平常点をつけ、加えて期末にレポートを提出してもらう。

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12401 12405	人類学特殊講義AⅠ・AⅡ（日本考古学）	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	伊 藤 秋 男
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 日本と朝鮮半島の古墳文化

【講義内容】 中国東北地区から朝鮮半島に展開する古墳文化を日本古墳文化との比較考古学的視点から論じたい。昨年度は、もっぱら高句麗古墳文化に論点が集中したので、本年度は、百済・新羅・伽那の古墳文化に照準を合わせる予定。

【講義計画】 発掘作業が絶えることなく続けられる限り、最新の情報が提供されるから、講義内容の流れもそれによって大きく変更を余儀無くされる時もある。個別の知識を習得することには重きをおかない。それよりプリントやスライドで与えられた考古資料を材料に、東アジアの古墳時代史を受講者みずから考えることのできる時間となるよう努力したい。

【評価方法】 筆記試験の成績とレポートの完成度から総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12411 12415	人類学特殊講義BⅠ・BⅡ（東洋考古学）	選・必	1～4	各2	前期 後期	重 松 和 男
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【講義内容】 中国考古学及び墓葬についての概説を行った後、中国新石器時代の仰韶・龍山を中心に墓葬研究の実際と展望を講義する。

【評価方法】 筆記試験。出席は重視する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12431 12435	人類学特殊講義DⅠ・DⅡ（社会人類学）	選・必	1～4	各2	前期 後期	倉 田 勇
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 スンバ島の宗教と文化

【講義内容】 東インドネシア・スンバ島は人類学者の注目する新しい研究の進んでいる地域の1つである。この地に幾度か調査旅行を試みてきた。先にGregory L. Forthは東スンバのRindi地区について伝統的社会について民族誌的研究を1981年に公にしている。本年度はこのForthの研究に準拠しつつ、資料を整理して、講義する。講義の順序は以下に示す形である。

【講義計画】 人類学特殊講義DⅠ
 1. スンバ社会の概観
 2. 家屋構造と原理
 3. 村落形態
 4. 空間と秩序
 5. コスモス空間
 6. 靈魂と生命
 7. 神位
 8. Marapu（祖霊）
 9. 大地の靈力
 10. 外の靈
 11. 祭壇、境界、媒体
 12. リンディ宗教の概括

人類学特殊講義DⅡ

1. 妊娠と儀礼
 2. 出産
 3. 命名と儀礼
 4. 産後の禁忌
 5. 年令分類とライフサイクル
 6. 割礼
 7. 成熟
 8. 老年と権威
 9. 死体
 10. 墓石運搬（修羅）
 11. 埋葬
 12. 葬儀と交換
 13. 喪の終り

【評価方法】 試験による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12441 12445	人類学特殊講義 E I・E II (宗教人類学)	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	ペトロ・クネヒト
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 「聖なる旅」：巡礼という宗教行為の形と意味

【講義内容】 巡礼とは、重要な宗教行為である以上、思想、社会構造、経済体制、フォークロアなどの分野を跨る多元的行為である。ここで、先ず、幾つかの地域と宗教を選択して、巡礼の具体的なあり方を民族誌的資料を基にしながら紹介する予定である。それで、巡礼という現象に関する認識を高める。後期では、この認識を踏まえて、巡礼を多方面からアプローチして、総合的複合体としての理論的分析を試みる。

【講義計画】 前期：巡礼の民族誌

1. 日本：四国の八十八所と新四国のお遍路
2. 台湾と中国：母祖の巡礼；五大山の巡礼
3. 大陸部東南アジア：タイとカンブチャ
4. 中央アジア：カイラス山の巡礼
5. コンポステラと南米インディオの巡礼
6. メッカと北アフリカの巡礼

後期：巡礼の多元性とその意味

1. 巡礼という「旅」の主な具体的形態
2. 聖地を求める宗教的意味
3. 時空間における移動の社会的役割
4. 巡礼の経済的側面
5. メタファーとしての巡礼と総括

【評価方法】 前期・後期の両方の定期試験により、評価する。なお、試験に際しては参照物の持ち込みを認めない。

【テキスト】 特にないが、関係文献を順次に紹介する予定である。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12451 12455	人類学特殊講義 F I・F II (民族誌)	選・必	1～4	各2	前 期 後 期	中 込 睦 子
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 日本 ―内なる異文化―

【講義内容】 文化人類学は、「異文化」との出会いを通じて、人間とその文化について明らかにしようとする学問である。ところで「異文化」とは何であろうか？多くのひとは、異文化といえば、見たこともないような奇妙な習慣や観念の支配する遠い世界、または私たち日本人の常識が通用しない人々を思い浮かべるのではなかろうか。文化人類学者は、そのような未知なる世界を旅する旅人、または冒険家としてイメージされがちである。しかしひるがえって考えてみれば、私たちは「異文化」に対する「自文化」とされる日本文化について、自らの体験以上のことを知っているのだろうか。日本文化のすべてが既知であり常識だとはたしていいきれのだろうか。ボーダーレスといわれる時代を迎えた今、日本文化の多元的な成り立ちが改めて問い直されているのはむしろ当然といえるかもしれない。本講義では、日本文化の中にひそむ「異なるもの」を一つ一つ見つめ直し、私たちの「常識」なるものを内側から問い直してみたいと思う。

【講義計画】 前期：異文化と自文化（文化人類学と日本研究）
異なるものの発見（日本社会の地域性）
見える村と見えない村（景観にみる社会構造）
家と村の綱引き 1（地割制）
家と村の綱引き 2（一人前の基準）
若者の力（若者組の秩序と反秩序）
老人の力（宮座にみる長老の権威）

子供の力（神になる子供達）
 日本社会の多元性
 後期：「家」と家族（家族の多様性）
 大家族の仕組み（飛騨白川村の大家族制度）
 小家族の仕組み1（末子相続）
 小家族の仕組み2（隠居分家）
 屋敷の継承（屋敷先祖と屋敷筋）
 家と先祖（柳田国男の先祖観）
 位牌祭祀にみる先祖観1（位牌祭祀の諸形態）
 位牌祭祀にみる先祖観2（位牌分け）
 死者の行方（両墓制と靈魂観）

以上のような計画で、講義を行う。講義主体であるが、小レポートなどを通じて各自の意見発表の機会を随時設けるので、受講者には講義内容を自分自身の知識・体験に照らして常に検証する態度を期待する。なお、VTRを使用して、各テーマをより具体的にとらえられるよう配慮したい。

【評価方法】 前・後期とも定期試験の成績と提出された小レポート（随時）を総合して判断する。

【テキスト】 とくに指定しないが、テーマに即した資料を配布する。また、参考文献リストを講義の初めに配布し、また講義の中でも随時文献を指示するので各自入手して目を通すこと。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12461	人類学特殊講義G I（考古学）	選・必	1～4	2	集中	藤 井 純 夫
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 西アジア新石器文化の諸問題

【講義内容】 西アジアの新石器文化は、少なくとも二つの点から正當に評価されねばならない。一つは、ムギ作農耕の開始。一つは、ヤギ・ヒツジ・ウシの家畜化である。この二つの出来事とその後の人類社会にもたらした影響は、計り知れない。ムギ・ヤギ・ヒツジ・ウシは、今日の世界の人口の半数以上を扶養しているのである。

本講義では、特に後者（ヤギ・ヒツジの家畜化問題）に集点を絞り、西アジア先史社会のどのような行為の中に家畜化が起源し、それがどのような文化と共に進行したか、について解説する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12465	人類学特殊講義G II（考古学）	選・必	1～4	2	集中	大 塚 達 郎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 考古学研究上の大きな方法論として、型式学あるいは型式編年がある。自身の専門である縄文土器を例として、型式編年論を述べる。縄文土器等についての予備知識は不要である。

【評価方法】 試験による。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12481 12485	人類学特殊講義J I・J II（考古学）	選・必	1～4	各2	前期 後期	早 川 正 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 「南太平洋のEthnoarchaeology」

- 【講義内容】 考古学の研究対象は、なにも原始人とその文化とか紀元前の古代王朝文明の問題とは限らない。最近の考古学は様変わりが著しく、江戸文化考古学、産業考古学、環境考古学など想いもかけない人類文化の歴史や空間を縦横に探索してゆく傾向にある。この講義も例外ではなく、過去わずか数百年しかさかのぼれないような南太平洋の島々の伝統文化を民族学や社会人類学の豊富な研究成果を参照して、別の角度である考古学からのアプローチが可能である。
- 代表的な参考書は、S.Kent(ed.) Method and Theory for Activity Area Research (1987 N.Y.)をあげておく。

- 【講義計画】 南太平洋の広大な海域に人類学としての目を開かせた古典的な民族学の成果や学説、そして、近年著しく発達してきたEthnoarchaeologyの理論と実際を紹介する事から開始したい。それらを前提として、具体的な地域研究の資料をさしずめ、ニューギニア高山地帯、カロリン群島、小スンダ列島などに求めて論考する予定である。なお、必要に応じて講義内容をもっと理解させるため、適切な博物館や特別展覧会の訪問といった、交通費のかかる学外授業を補講として加える事も考慮しているの、特に他学科生には不向きである。

- 【評価方法】 真面目に受講させるため、出席を成績に反映させる。遅刻は講義をする者にとって迷惑なので認めない。期末2回のテストを実施するので、毎時間のノートは欠く事が出来ない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12491 12495	人類学特殊講義K I・K II (民族学)	選・必	1～4	各2	前期 後期	森 部 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

- 【副 題】 「社会・政治的文脈におけるタイ上座仏教」

- 【講義内容】 本講義は、タイの上座仏教をその社会・政治的文脈において様々な視点から検討・紹介し、この地域に関する受講者の知識・理解を深めることを目指す。

- 【講義計画】 K I (前期)
1. 文化的媒体としての出家還俗制度
 2. 積徳行為の社会的意味とその背景にある仏教のイデオロギー
 3. タイ農民の世界観——死と再生の観念を手がかりとして
 4. 俗社会に対するタイ仏教の接近方法
- K II (後期)
1. バンコクの僧院における地方出身者の動向
 2. タイにおける地方僧院の相対的自律性と宗教による国家統合
 3. 19世紀タイにおける仏教改革運動
 4. 都市化の中の現代タイ仏教の動向

- 【評価方法】 定期試験の結果と出席を考慮して評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12501	人類学特殊講義L I (民族学)	選・必	1～4	2	前期	吉 原 和 男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

- 【副 題】 華人社会の宗教にみられる文化変容と適応(1)

- 【講義内容】 中国の広東省東部で第二次大戦の直前期に創唱されて、共産党政権による新中国の成立後に香港や東南アジアに伝えられた宗教である徳教を題材として、華人社会における中国系宗教の動態を考察する。東南アジアに伝播して以降に形成された教義の特徴、祭壇の構成、儀礼と行事などにおける変化を文化変容の問題として捉え、その背景にあるマレーシアと中国の国内政治、マレーシアを中心にしてみた国際関係を関連づけて考える。

- 【講義計画】 具体的事例としては、担当者が現地調査を行った香港とマレーシアのサラワク州の徳教の諸組織を取り上げる。

【評価方法】 筆記試験、出席重視

【参考文献】 リン・パン『華人の歴史』（みすず書房、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12505	人類学特殊講義ⅡⅡ（民族学）	選・必	1～4	2	集中	吉 原 和 男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 華人社会の宗教にみられる文化変容と適応(2)

【講義内容】 中国の広東省東部で第二次大戦の直前期に創唱されて、共産党政権による新中国の成立後に香港や東南アジアに伝えられた宗教である徳教を題材として、華人社会における中国系宗教の動態を考察する。東南アジアに伝播して以降に形成された教義の特徴、祭壇の構成、儀礼と行事などにおける変化を文化変容の問題として捉え、その背景にあるタイと中国の国内政治、タイを中心にしてみた国際関係に関連づけて考える。

【講義計画】 具体的事例としては、担当者が現地調査を行ったタイのバンコク大都市圏の徳教組織を取り上げる。特に、徳教の盛行事に関連して漢民族の祖先崇拜一般のありかたと徳教のそれを比較して考えてみる。東南アジアの華人社会における他の宗教との比較研究をも、時間が許せば試みたい。徳教は主に潮州方言を使用する人々の間で受容されているが、他の中国語方言を使用する人々に主に信仰される宗教も存在するのである。

【評価方法】 筆記試験、出席重視

【参考文献】 リン・パン『華人の歴史』（みすず書房、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12511 12515	人類学特殊講義ⅡⅠ・ⅡⅡ（民族学）	選・必	1～4	各2	前期 後期	坂 井 信 三
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 「西スーダンの文明の研究」

【講義内容】 サハラ砂漠の南に位置する西アフリカ内陸のサバンナ地帯（西スーダン）には、古くからきわめて独特の文明が展開した。農耕民・牧畜民・漁撈民など、異なる生業をもち、異なる言語・文化をもつ多様な集団がそれぞれの民族的独自性を強化しつつ、相互に交渉しあう独特の社会的システムを生み出したのである。この西スーダンの文明の諸特性を以下のような諸点から論じていく。

【講義計画】 前期：
 1. 西スーダンの文明の諸特性をよく理解するために、アフリカ大陸全体の文化史を、気候変動の歴史と外の世界との交渉の二つの観点から概観する。
 2. 以上の概観について、研究対象を西アフリカにしぼり、この地域に展開した諸文化の特性を、生態学的条件と技術、コミュニケーションの様式、社会統合の形態などの側面から論じる。
 後期：
 1. 西スーダンの文明の成立と展開を、イスラームと商業の普及の過程に注目しつつ、歴史的にあとづける。
 2. 西スーダンの文明は、16世紀以降近代世界システムの影響下に入った。その影響の下でたどった社会変動を、植民地化から独立までの時代をも視野に入れつつ、分析する。

【評価方法】 筆記試験。持ちこみ資料自由の条件で、授業で講じた問題について、自分の観点から論じてもらう。

【テキスト】 なし

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12541	人類学演習 I A (考古学)	選・必	2～4	4	通 年	伊 藤 秋 男
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 世界の考古学（地域は限定しない）

【講義内容】 考古学全時代にかかわる問題について、受講生各自が調査研究し、発表資料の作成、口頭発表、討論、レポート作成を通して、考古学研究と論文作成のための初歩的な方法論を学ぶ。

【講義計画】 1)受講生の課題に対する興味が、どこにあるかを開講時に質問する。
2)課題設定に対する助言。発表順の決定。
3)発表資料の作成と口頭発表。
4)質疑応答と発表成果の評価。
5)レポートの作成と提出。
ほぼ上のような順序で演習は進行する。受講生の人数にも関係するが、すくなくとも3回は発表を義務づけたい。

【評価方法】 発表資料の作成方法、発表内容と態度、レポートなどから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12543	人類学演習 I B (考古学)	選・必	2～4	4	通 年	重 松 和 男
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【講義内容】 各自でテーマを選び、発表・質疑応答を行う。テーマは相談の上で許可を得なければならない。強制的に質問をさせ、たがいに切磋琢磨するよう目指す。年間のまとめのレポートを課し、出来れば卒論のテーマへ続けさせる。

【評価方法】 試験に平常の発表・質問等の様子を加味する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12545	人類学演習 I C (考古学)	選・必	2～4	4	通 年	早 川 正 一
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 「機能や役割からみた考古学」

【講義内容】 考古学の基本的そして伝統的な方法が、発見された遺跡や遺物に対する型式学と層位学に依存している事は明白な事実である。そのうえで、機能や役割の問題を考察するのが目標であり、欧米の文献や関連する日本の研究者の動向をもとに適切なテーマを選定させ、各人の勉学成果を発表させて検討を加える。

【講義計画】 年間のスケジュールの中で、下級生は当初、上級生の発表の状況をよく観察し、その成果を聴取する事から始める。次の段階では、上級生を中心とした下級生主体のグループをつくり、上級生指導の共同発表を順次にさせる。最終段階では、上記の経験をもとにして、下級生の各人が個別にテーマにもとづく研究の成果を発表し、その都度、上級生が補助的なコメントを加え、全員で討論してみる。

【評価方法】 下級生・上級生の区別なく、各人の勉学成果である発表のコピー資料、他人の発表に対するコメントの状況などを総合的に評価する。もちろん、無責任な欠席は許されない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12547	人類学演習 I D (民族学)	選・必	2～4	4	通 年	森 部 一
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 「近代化・都市化」の中におけるタイ上座仏教

【講義内容】 本演習は「近代化・都市化」が進行する過程で生じているタイの上座仏教の振動の様相を様々な文献を通じて理解させ、考えさせる点にポイントをおく。

【講義計画】 上述の目標に向けて
 ①文献の選定・発表順の決定
 ②発表の仕方の概説
 ③口頭発表
 という順で演習を進めていく予定。

【評価方法】 定期試験・発表内容・質疑応答・出席などから総合的に評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12551	人類学演習 I E (民族学)	選・必	2～4	4	通 年	ペトロ・クネヒト
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【講義内容】 聖地を訪れる旅である「巡礼」の幾つかの形を考えるのがこの演習の目的である。民族誌的研究を中心に時空間における旅としての巡礼、それから又、メタファーとしての「巡礼」のあり方を検討する。

【講義計画】 まずは、民族誌を読んで、巡礼の具体的な条件や形態などを考えてもらう。その上で、後半において、分析と解釈などの理論的問題を導入する予定である。

【評価方法】 演習活動に協力する態度の他に、発表の仕方とレポートを評価の基準にする。

【テキスト】 C. B. Yamba *Permanent Pilgrims*. Edinburgh 1995.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12553	人類学演習 I F (民族学)	選・必	2～4	4	通 年	坂 井 信 三
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 「イスラーム文明の社会人類学的研究」

【講義内容】 イスラームは、地理的にはインドネシアからセネガルまで、ユーラシア・アフリカにまたがる広大な地域に広がり、様々な民族を含んでいる。また歴史的に言えば、それは西欧キリスト教文明、インド文明、中国文明とならぶ大文明を形成してきた。特に今日、世界が西欧の文明とイスラーム文明に二分された観のある中で、この文明の社会・文化・歴史について、ある程度ふみこんだ知識をもつことは不可欠であろう。

【講義計画】 前期は共通のテキストを利用してイスラーム文明の歴史・文化・社会について一般的な知識を身につけ、後期は各自の興味にもとづいて、個別の問題について研究発表をしてもらう。

【評価方法】 ゼミでの発表をさらに深化させたレポートを提出してもらう。

【テキスト】 特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12555	人類学演習 I G (民族学)	選・必	2～4	4	通 年	吉 原 和 男
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 環太平洋地域における中国系移民社会の社会構造と文化

【講義内容】 1. 人口移動の社会人類学的研究であり、移民の故郷・法制と移民プロセス・移住地・移民のコミュニティ・適応と文化変容・エスニシティなどについて総合的に考える。華僑・華人、香港、チャイナタウン、中国の宗教、中華料理などがキーワードである。
2. 北米・東南アジア・オーストラリアそして日本などにおける他のアジア系移民との比較研究を含む。

【講義計画】 前期：基本文献の講読を中心とする。
『シンポジウム 華南』 1992年
『華僑 華人』 1995年
『華人の歴史』 1995年
レポート提出2回。
後期：3年生のための卒論テーマ決定を目的とした研究発表を各人にしてもらい、2年生も討論に参加する。
夏休み明けに研究合宿（2泊3日）を予定。

【評価方法】 口頭発表とレポートによる

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12557	人類学演習 I H (民族学)	選・必	2～4	4	通 年	倉 田 勇
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 可

【副 題】 ニアス島の宗教と文化

【講義内容】 本演習はテキストとしてP. Suzukiの1959年にライデン大学に提出して「インドネシア・ニアス島の宗教システムと文化」(The Religious System and Culture of Nias, Indonesia)をえらんだ。参加学生は8名として全体138頁を分担して割り当て、レジュメを作って発表する方法をとる。前期は4年生中心、後期は3年生2年生が主体となる。その内容の大意と共に中に出てくる項目を下調べして報告してもらう。

【講義計画】 最初、導入は倉田が行なう。
内容は(前期)
1. ニアスの神と宇宙観(24頁)
2. 色、装飾、衣服、武器(8頁)
3. 集団、階層、僧侶(23頁)
4. 村落(9頁)
(後期)
5. 家屋(13頁)
6. 通過儀礼 1. (9頁)
2. 結婚(11頁)
3. 宴(18頁)
4. 葬儀(12頁)
5. Börö Nado(9頁)

【評価方法】 発表後まとめの提出

【テキスト】 上記の通り

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12601 12611	人類学特殊研究AⅠ・AⅡ（民族学）	選	1～4	各2	前期 後期	石 井 眞 夫
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 可

【副 題】 生命観と家族、親族組織

【講義内容】 家族親族の組織は人類の繁殖のためのシステムである。しかし人類の家族、親族組織には様々な慣行や観念がまつわり、単なる生物学的な繁殖体系以上のものを持っている。人々は生命をどのように考え、それは何処から由来するかといった生命観や、興味深い様々な親族慣行は人類社会の親族組織がもつ重要な一面である。この講義はこのような視点から、人類社会の家族、親族組織を形式的な点のみからではなく、その内側から見て行こうという試みである。

【講義計画】

1. 人類社会の親族組織——繁殖体系と観念体系
2. 生命の由来、民族誌の中の生命観
3. 近親相姦の観念
4. 出産育児の慣行
5. 外婚と循環婚
6. 親族慣行と親族間関係
7. 家族と居住集団

【評価方法】 試験

【テキスト】 特になし、参考文献は講義の中で紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12621 12631	人類学特殊研究BⅠ・BⅡ（民族学）	選 択	1～4	各2	前期 後期	森 部 一
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 可

【副 題】 「ゆるやかに統合された社会体系」をめぐる——東南アジア諸社会の研究——

【講義内容】 J. F. Embreeはその古典的論文（1950年）の中でタイ社会を「ゆるやかに統合された社会体系」という概念で説明しようと試みた。本講義は、この概念の紹介から出発し、1968年にこの概念をめぐる開かれたシンポジウムでの論争を踏まえつつ、タイ社会における社会関係あるいは集団・組織と人間とのかかわりをタイ各地に関する民族誌をもとに考察する。そしてタイ社会にみい出されたような特徴が東南アジアの他の社会にみられるかどうかを特にマレー、フィリピン、ジャワの各社会を取り上げて検討する。

【講義計画】

BⅠ（前期）

1. Embreeの古典的論文の内容紹介
2. シンポジウムにおける論争と課題
3. タイ人の行動様式と仏教の倫理
4. タイの村人にとっての「社会」
5. Embreeの見解に対する批判的検討

BⅡ（後期）

1. マレー人社会の検討
2. フィリピン社会の検討
3. ジャワ社会の検討
4. まとめ

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
12641 12651	人類学特殊研究C I・II（考古学）	選	1～4	各2	前期 後期	松 原 隆 治
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 可

- 【講義内容】 考古学に於いては、調査・研究上に様々な技術の知識と習得が要求される。純粋に考古学的なものでは、測量や実測、写真、拓影などが挙げられる。しかし、様々な科学的分析や測定は自らは不可能でも、他に依頼して実施してもらうことも多い。
 このような考古学の技術的側面について概述するとともに、可能なものは実習的に習得をさせることを意図している。
 手順等は、受講者の数に規制されるところが多いのでI、IIを継続して登録して欲しい。
 特に予備知識は必要としないが、講義の内容から、考古学に関心のない学生には不適であろう。

- 【評価方法】 筆記試験の他、出席及び途中での課題の消化を重視する。

文 学 部

教 育 学 科

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13101 13105	教育学Ⅰ・Ⅱ	必	1	各2	前期 後期	伊 藤 茂 樹
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【副 題】 現代日本の学校教育 ――「教育問題」を手がかりに――

【講義内容】 現代日本の学校教育は多くの問題を抱えている。こうした状況に対して幅広い理解と自分なりの解釈ができるような目を養うことを目的とする。

そのために、現代の代表的な教育問題である「いじめ」及び「不登校」をとりあげ、これらを手がかりに教育をめぐる状況について考察を広げていく。また、これらの問題や教育のあり方についてマスメディアなどによっておびただしく作り出され、私たちが教育を考える際の見方を大きく規定している、教育に関する様々な言説について、批判的にとらえることも試み、上記の目的を果たしたい。

【講義計画】 前期に「いじめ」、後期に「不登校」をとりあげる予定である。主として講義形式で進めていくが、これらを含めた教育現象についての統計データと、活字及び映像メディアにあらわれた種々の言説を適宜提示し、各自批判的に読みとることを求める。

【評価方法】 学期末のレポートと、授業への参加によって評価を行う。

【テキスト】 特に用いないが、参考文献をその都度指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13111	心理学Ⅰ	必	1	2	前期	泉 ひ さ
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 心理学の基礎知識として心理学の定義、歴史、学習目標、研究方法、研究領域等について解説し、更に人間の精神機能の基礎となる感覚と知覚及び知的面に関係のある学習、記憶、知能等の内容を説明すると共に、各心理現象の発達的特徴についても言及する。

【講義計画】 上述の内容について主として講義形式をとるが、内容によってはVTRや実験を施行する。

【評価方法】 学期末のテスト、レポート、出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】 泉 ひさ著『心理学入門：発達を中心として』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13115	心理学Ⅱ	必	1	2	後期	泉 ひ さ
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 人間の行動の原動力として考えられる欲求の感情、そして行動の多様性の基礎となる性格について解説すると共に、青年が体験する適応の諸問題（大学生活、就職、性と性差、恋愛と結婚）について実態調査にもとづいて解説する。

【講義計画】 上述の内容について主として講義形式をとるが、内容によってはVTRや実験を施行する。

【評価方法】 学期末のテスト、レポート、出席状況等から総合的に評価する。

【テキスト】 泉 ひさ著『心理学入門：発達を中心として』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13121	教育史 A	必	1	2	前期	廣 田 照 幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 本講義は、社会史・歴史社会学的視点から日本教育史を概観することを目的としている。同時に、近年の西洋教育史研究の展開を踏まえて、西洋教育史のいくつかのトピックについても、併せて講義する。

【講義計画】 以下の内容を講義する。
 (1)歴史をどうみるか
 (2)「教育」の誕生
 (3)江戸時代の教育
 (4)初等教育の歴史的変容——西洋と日本
 (5)中等教育の歴史的変容——集団葛藤と学歴主義
 (6)高等教育の歴史的変容——日本的学歴秩序の形成

【評価方法】 授業終了後のレポートを重視する。また、出席も評価に加味する。

【テキスト】 指定せず。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13125	基礎統計学	必	1	2	後期	神 谷 俊 次
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 教育学・心理学を学ぶ上で必要となるデータの扱い方、統計的な考え方の基礎について理解することを目的とする。統計学の専門的な知識は、2年生以降の心理教育統計学Ⅰ・Ⅱで学ぶので、この講義では、具体的な資料や簡単なデータを実際に処理しながら統計の基礎を身につける。

【講義計画】 (1)教育学・心理学における統計の役割
 (2)教の意味
 (3)社会調査…標本抽出、質問紙のワーディング
 (4)データの特徴の理解…代表値、散布度
 (5)図表の書き方
 (6)クロス表の読み方、エラボレーション
 (7)関係の記述…相関、回帰
 (8)推測の考え方

【評価方法】 出席、レポート、筆記試験によって評価する。

【テキスト】 授業のはじめに指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13131	教育基礎演習Ⅰ	必	1	2	前期	酒 井 朗 伊 藤 美 奈 子
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 教育学・心理学を学ぶための基礎となる知識、技法を習得することを目的とする。そのために、文献探索の方法、ワープロとしてのコンピュータの利用、レポートの書き方についての理解を得るとともに、教育学・心理学両領域の基礎的な論文を取り上げて講読・討議することによって、さまざまな問題について批判的に検討する態度を養う。

- 【講義計画】 (1)授業概要、講読論文の説明
(2)文献探索講習、図書館探索
(3)GEMMA 講習
(4)ワープロ講習 1、2
(5)文献講読 1～6
(6)レポートの書き方 1 (心理系)
(7)レポートの書き方 2 (教育系)
- 【評価方法】 欠席回数が多い場合は単位を与えない。評価は、文献講読、レポート(ワープロ講習課題、GEMMA講習課題、自由テーマによる最終レポート課題)、出席に基づいて行う。
- 【テキスト】 テキストは使用しないが、講読論文は配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13135	教育基礎演習Ⅱ	必	2	2	前期	廣 田 照 幸 神 谷 俊 次
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 教育基礎演習Ⅰで習得した知識、技法を活用し、少人数グループごとに研究テーマを設定し、必要な資料を収集・整理し、グループごとの研究発表、討論を行う。

- 【講義計画】 (1)授業概要説明、グループ分け
(2)グループ別テーマ検討、資料収集計画
(3)文献検索(中級)
(4)社会科学の方法 1
(5)社会科学の方法 2
(6)グループ別の資料収集作業(図書館)
(7)グループ別の研究発表及び討論 1
(8)グループ別の研究発表及び討論 2
(9)グループ別の研究発表及び討論 3
(10)グループ別の研究発表及び討論 4
(11)グループ別の研究発表及び討論 5
(12)グループ別の研究発表及び討論 6

【評価方法】 出席、研究発表、レポート課題により評価する。

【テキスト】 使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13141	教育社会学 A	必	2	2	前期	酒 井 朗
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 この講義は、全体社会と教育という営みがどのように関わっているのかについて理解を深めることを目的とする。人間が社会の中に生まれ落ちるとはどのような意味かといった原理的な問題を踏まえ、近代社会における学校教育の成立の意味とその社会的機能、および現代社会における教育の変容について検討する。

- 【講義計画】 *文化・文化化
*社会の一員になる：社会化
*教育への社会学的接近
*学校のある社会、学校のない社会
*教育機会の不平等
*学歴社会の成立
*教育改革と学習社会

【評価方法】 1)出席と講義への参加度 2)レポート 3)学期末試験の3つを総合的に判断する。

【テキスト】 天野郁夫他『教育社会学』（日本放送出版協会、1994）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13145 13611	教育心理学Ⅰ 教育心理学Ⅱ	必修	2	各2	前期 後期	石田 裕久
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 教育心理学の中心的課題である「人間の成長と発達」および「学習」の諸過程について理解を深めるとともに、教育指導・方法にかかわるさまざまな問題についても解説を加える。
本講義は、教育学科学生に限り、教職に関する専門科目に充当することができる。

【講義計画】 教育心理学Ⅰ（前期）では、乳幼児期から青年期に至る心身の発達を知的発達、心理社会的発達、自己意識の発達という3つの側面からたどるとともに、教育（学習の過程）と発達のかかわりについて解説する。
また、教育心理学Ⅱ（後期）では、知能・学力・性格などの理解を踏まえて、教育の方法や技術・評価の在り方についての講義を行なう。

【評価方法】 前期・後期とも定期試験期間中に筆答による論述試験を行なう。また、授業内容に関わるレポートの提出を求めることがある。

【テキスト】 神谷育司他（編）『発達と教育の心理学』（協同出版）

（注）教員免許状取得希望者は、Ⅰ、Ⅱとも履修すること。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13151	原典講読A	必	2	2	後期	廣田 照幸
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【副題】 <子ども史>を読む

【講義内容】 20世紀は「子どもの世紀」であった。19世紀まで虐待や搾取にさらされてきた子どもは、今世紀に保護と配慮の対象になってきた。わずか百年ほどの間に、子どもに対する視線も、子どもをとりまく環境もすっかり変化した。テキストは、こうした変化を肯定的にとらえるイギリスの社会史の著作である。テキストを購読する際には、子どもの保護が子どもの無能化・従属を、子どもへの配慮が子どもの管理・抑圧を生むという、パラドックスに触れていく予定である。

【講義計画】 S.Humphries et. al., *A Century of Childhood*, (Sidgwick & Jackson, 1988) から次の章を読む。
“The Age of the Child”
“The End of Innocence”
予習を前提として授業を進める。

【評価方法】 普段の予習、質疑応答、出席を重視し、テキストとは別の内容で試験を課す。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13152	原典講読A	必	2	2	後期	神谷 俊次
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 学校教育において必要とされる子どもの能力は何か。学習課題、教授法、文化によっても規定されることからであるが、カリキュラムや学校文化の分析を通じて実践的な能力について考えていく。また、学習不全者への効果的な教育法についても考察する。

【講義計画】 あらかじめ全員がテキストを読んでいることを前提として授業を進めるが、和訳と内容に関する討論を中心とする。

【評価方法】 出席状況、授業における購読、定期テストの結果を総合して評価する。

【テキスト】 J. Walters et al. (1993) PIFS: Everyday cognition goes to school. *Mechanisms of everyday cognition*. LEA

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13155 13156	原典講読B	必	3	各2	前期 後期	酒井 朗
他の科目との関連					他学科履修	重複履修

【講義内容】 この講義では、批判的教育学者として世界的に有名なH. A. Giroux の *Teachers as Intellectuals: Toward a Critical Pedagogy of Learning*, Bergin & Garvey Publishing Inc. 1988 からいくつかの論文を選んで読む。本書は、資本主義社会における学校教育が本質的に有しているイデオロギー性を看破しつつ、問題克服のために学校や教師が批判的視点を取り入れながら、どのような教育を行うべきであるかを具体的に説くものである。

【講義計画】 講義は演習形式で行い、毎回複数のレポーターによる内容の説明の後、質疑・討議を行う。内容を大づかみに捉える力を養うことが目的であるので、逐語訳は求めない。

具体的には以下の諸章を取り上げる予定である。

Introduction Teachers as Intellectuals

Chap. 1 Rethinking the Language of Schooling

Chap. 2 Toward a New Sociology of Curriculum

Chap. 6 Mass Culture and the Rise of the New Illiteracy: Implications for Reading

【評価方法】 講義への参加状況、期末試験、出席状況を総合的に判断して評価する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
13157 13158	原典講読B	必	3	各2	前期 後期	石田 裕久
他の科目との関連	心理学					他学科履修 不可 重複履修 可

【講義内容】 心理学の諸問題（リーダーシップ、同調行動、学習の構え、認知的不協和、態度変容、対人魅力、援助行動、愛着の形成など）を扱った研究論文を訳読・発表しつつ、さまざまな心理学的概念について理解を深めることを目的とする。

【講義計画】 それぞれの研究論文を数名のグループで担当し、全訳のレポートを作成する。それにもとづいて、発表・質疑応答を行なう。受講生には、事前にレポートに目を通し、質問事項、意見をまとめた上で授業に臨むことが求められる。

【評価方法】 1つの研究論文を読み終わるごとに、その内容に関する筆記試験を行なう。したがって、定期試験期間中には試験を実施しない。また、授業中の発表の仕方、討論への参加度なども評価の対象とする。

【テキスト】 今年度は、International Journal of Educational Researchの特集号『Cooperative Learning in Cultural Context』からドイツ、日本、イギリスなど各国の共同学習に関する論文を選んで講読する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13251 13261 13271 13281	教育演習Ⅰ Ⅰ・Ⅱ Ⅰ・Ⅲ Ⅰ・Ⅳ Ⅰ	必	3・4	各2	前期 後期	三 上 茂
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 哲学・人間学・教育学の文献の講読演習を通して現代世界の問題を人間や教育の視点から批判的に考察する。毎月の最後の週は各人の卒論に向けての文献研究の発表に当てられる。

【講義計画】 文献の講読を発表者を決めて順番に行い、受講者全員が参加して討論を行う。発表者はレジュメを用意し、質疑に対して応答できる準備をしてることが要求される。発表者以外の受講者ももちろん質問やコメントを要求される。出席が厳しく要求される。

【評価方法】 毎回の発表、発言、レポート、合宿時の発表、レジュメ、出席状況等を総合的に判断して評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13252 13262 13272 13282	教育演習Ⅰ Ⅱ・Ⅱ Ⅱ・Ⅲ Ⅱ・Ⅳ Ⅱ	必	3・4	各2	前期 後期	廣 田 照 幸
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【講義内容】 本演習は、日本および西洋教育史に関する文献や史料の講読を通じて、人々の生活と学校の関わり合いの歴史的な変化や、家族・親子関係の歴史的な変化について考察することを目的としている。

【講義計画】 一方では、指定した文献の報告・討議を通して、教育史研究のための基本的な知識や研究方法を習得する。もう一方で、各自の問題意識に従ってテーマを設定し、先行研究の収集、史料の収集と分析を進めて、その成果を演習の場で順次報告し、受講者全員で討議することによって、具体的なテーマに沿った教育史研究を進める。

【評価方法】 指定文献の報告、討議の内容や参加度、各自に課した課題についてのレポート等から総合的に判断する。

【テキスト】 指定せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13253 13263 13273 13283	教育演習Ⅰ Ⅲ・Ⅱ Ⅲ・Ⅲ Ⅲ・Ⅳ Ⅲ	必	3・4	各2	前期 後期	酒 井 朗
他の科目 との関連					他学科 履 修	不可 重 複 履 修 不可

【副 題】 教育社会学演習

【講義内容】 この演習は社会学的な観点から現代の教育事象やさまざまな教育問題を批判的、分析的に理解する力量の形成をめざすものである。半期毎にテーマを設定し、関連する文献を講読、検討する。受講者は毎回文献に対するコメントを用意してこなければならない。また、これと平行して、受講者は各自の問題関心に基づいて文献、資料を収集し、定期的に報告する。

【講義計画】 前期は、教育社会学の種々の領域について、文献を講読し、社会学的なものの捉え方を学ぶ。後期は、教育と選抜の問題をとりあげる。近代社会の人材の選抜・配分に対する教育の機能の原理的な考察の後、今日の日本社会における教育の選抜をめぐる諸問題について考えたい。今回は教育社

会学ではかなりオーソドックスなテーマを取り上げるが、できるかぎり受講者の関心と結び付いた形で議論をすすめていきたい。以下の諸論文を検討していく予定であるが、具体的なシラバスは講義の最初に配布する。

竹内 洋・徳岡秀雄編『教育現象の社会学』（世界思想社、1995）

苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995）

竹内 洋『日本のメロトクラシー：構造と心性』（東京大学出版会、1995）

宮島 喬・藤田英典編『文化と社会——差異化・構造化・再生産——』（教育開発研究所、1990）

『季刊子ども学Vol. 3（特集：テスト社会と子ども）』（福武書店、1994）他

【評価方法】 演習への参加状況とレポートを総合的に判断して評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13254 13264	教育演習 I 4・II 4	必	3	各2	前期 後期	Michael Calmano
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「比較教育学演習 I～II」

【講義内容】 演習の導入として各学期の初めには「比較教育学」そのものに関する理論的な考察を行うが、授業の主な内容は履修者の自由な発表から成り立つ。発表は広い意味での「教育」に関連があればよいが、この演習では“formal education”（公教育）と「人間発達」をテーマとする発表が普通大半を占めている。

なお、発表のための勉強にあたっては、次年度に書く卒業論文のテーマ設定を目指して取り組んだ方が望ましい。

【講義計画】 発表の当番となった履修者は授業の3日前までに発表のレジメを教員に提出する。授業は発表をもとにして討論の形で行われるが、必要に応じて教員はプリントなどを用意して補足説明やテーマを発展させるための指導をする。その時、統計学的なデータや実証的研究も紹介するが、特に研究の価値の問題に焦点を合わせる。なお、夏合宿の勉強は、ある共通のテーマについて、履修者各自が選んだテーマの観点から、検討・議論する形を取る。

【評価方法】 授業への出席、先輩の発表への積極的な反応と発言、及び授業へ貢献するプレゼンテーションの準備を合格の必要条件とする。演習内容を対象とする筆記試験は行わないが、発表準備のために提出するレジメは、授業参加の基本点とともに、成績を決める基準とする。

【テキスト】 共通のテキストを使わないが、発表の時に使う文献はこの比較教育学演習の参考資料とされる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13255 13265 13275 13285	教育演習 I 5・II 5・III 5・IV 5	必	3・4	各2	前期 後期	石 田 裕 久
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 教育心理学研究

【講義内容】 教育心理学研究の具体的方法についての理解を深める。そのために内外の研究論文を選んで発表した後、各自の問題関心に応じて研究計画の立案、データ収集、結果の分析、報告書の作成までを行なう。

【講義計画】 年間を通じた授業計画は以下のとおりである。

① 4 年次生による前年度の研究報告の発表（4 月）

② 各自が関心をもった研究論文の紹介（5～6 月）

③ 研究計画の立案・発表（7 月）

④ 研究計画の確定（夏合宿）

⑤ 調査・実験の実施（9～10月）

⑥ 結果の分析（11月）

⑦報告書の作成（12～1月）

なお、調査・実験の実施にあわせて、SPSSXによるデータ解析のための実習を行なう。

【評価方法】 討論など授業への参加度ならびに提出された研究報告書により評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13256 13266 13276 13286	教育演習Ⅰ 6・Ⅱ 6・Ⅲ 6・Ⅳ 6	必	3・4	各2	前期 後期	神 谷 俊 次
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 心理学に関する文献を専門雑誌から選び、発表・討論することにより、論文の読解力を養成する。さらに、各論文の問題点や各自の問題意識に基づき、テーマを設定し、そのテーマに対する適切な心理学的アプローチの仕方について考えていく。
受講生は、心理教育統計学Ⅰ、Ⅱ及び調査・測定法Ⅰ、Ⅱを履修すること。

【講義計画】 (1)受講生が各自の関心テーマに基づいて関連する文献を自ら収集し、発表する形で授業を進める。
(2)他の受講生の発表に対しても、積極的な意見表明を求める。
(3)テーマがある程度決まった後に、仮説検証可能な研究計画を立案する。
(4)研究計画に基づいて、観察法、実験法、調査法等により実際にデータを集め、分析・考察する。
(5)報告書を作成した後、研究発表を実施する。

【評価方法】 文献発表、出席、授業への参加度、最終レポートにより評価する。

【テキスト】 テキストは使用しない。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13257 13267 13277 13287	教育演習Ⅰ 7・Ⅱ 7・Ⅲ 7・Ⅳ 7	必	3・4	各2	前期 後期	伊 藤 美 奈 子
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 青年心理研究に関する演習

【講義内容】 卒業論文作成に先立ち、研究テーマの探索と研究方法の修得を目的とする。Ⅰでは、青年心理学の諸テーマに関する文献や研究論文の講読・発表、および討論を通じて、各自の問題意識や関心を深めるとともに、青年心理研究の方法論を学ぶ。またⅡでは、グループにわかれて、各グループで選んだテーマについてミニ研究を行なう。

【講義計画】 本講義では以下のような内容で行なう予定である。

演習＜前期＞

青年心理に関する文献・研究論文についての講読、個人発表と全体討論を行なう。その際、以下の各点をポイントとする。①文献・論文の読解力を養う。②諸研究の独創性と問題点を把握する。③各自の問題意識や関心を明確化する。

演習＜後期＞

グループによるミニ研究

1. 研究計画…テーマの選択と資料収集。
2. 方法論の検討…テーマに応じたアプローチのしかたをグループ討議により決定する。
3. データ収集と結集についてのグループ討議。
4. グループごとにレポート作成（ミニ研究論文）。
5. 研究発表会…研究結果の報告（学会形式）。

【評価方法】 ＜前期＞に関しては、担当のテーマについての個人発表の内容、および討論への参加態度や意欲等から総合的に評価する。＜後期＞ではグループ研究に関するレポート、および研究発表会の内容

を評価の対象とする。

【テキスト】 とくに指定しない。ただし参考文献、論文、資料などを指定し、随時使用することもある。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13258 13268 13278 13288	教育演習Ⅰ 8・Ⅱ 8・Ⅲ 8・Ⅳ 8	必	3・4	各2	前期 後期	長谷川雅雄
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 本演習は、臨床心理学領域におけるさまざまな事象を学ぶことによって、人間の「こころ」の表層および深層を、一面的にはなく多面的な視点から深く探求していくことと、「心理的援助」の考え方について幅広く理解していくことを目指している。表層にしろ深層にしろ、「こころ」は静的なものではなく動的なものであり、その動きは容易にとらえがたい複雑さに満ちている。ある人の「こころ」を理解していくためには、他の重要な人物との過去から現在にいたる「関係」あるいは「関係の動き」のなかに理解していこうとする力動的な視点がきわめて大切となるが、ここにも重点をおきながら演習を進めていく。

具体的には、心理療法、精神病理学、精神分析学、深層心理学、パトグラフィーなどに関する著書や論文をテキストとし、講読・討論を行なう。その際、発表者は単にテキストの要旨だけでなく、疑問や関心を抱いた事項について、自ら調べたり考えたりしたことを書き添え（これを必ず守ること！）たレジュメを作成し、このコピーを全員に配布して発表する。全体討論の進行は、教師ではなく進行役（これも受講生が順次担当する）が務めるが、議論が深まっていくためには、当然の事ながら何よりも全員が下調べを十分にし、自らの考えや疑問点などを前もって整理しておくことが前提条件となる。

【講義計画】 前期および後期の前半頃までは上記のように、テキストを用いた発表・討論を行なうが、それ以降は、4年次生の「卒論・中間発表」と3年次生の「自由発表」とにきりかえ、同じく全体討論形式で進めていく。なお、適当な時期に、模擬体験として、セラピスト役とクライアント役にわかれて架空の面接をする「ロール・プレイ」を予定している。また、4月と9月には合宿を行なう。

【評価方法】 討論での姿勢や発表内容、提出レポートなどから総合的に評価する。また出席も重視する。

【テキスト】 サリヴァン、H.S.『精神医学は対人関係論である』（みすず書房）
中井久夫『治療文化論』（岩波書店）
河合隼雄『心理療法序説』（岩波書店）その他

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13274 13284	教育演習Ⅲ 4・Ⅳ 4	必	4	各2	前期 後期	Michael Calmano
他の科目 との関連				他学科 履 修	不可	重 複 履 修 不可

【副 題】 「比較教育学演習Ⅲ～Ⅳ」

【講義内容】 演習の導入として各学期の初めには「比較教育学」そのものに関する理論的な考察を行うが、授業の主な内容は履修者の自由な発表から成り立つ。発表は広い意味での「教育」に関連があればよいが、この演習では“formal education”（公教育）と「人間発達」をテーマとする発表が普通大半を占めている。

なお、発表のための勉強にあたっては、卒業論文のテーマ設定と作成を目指して取り組むことが望ましい。

【講義計画】 発表の当番となった履修者は授業の3日前までに発表のレジュメを教員に提出する。授業は発表をもとにして討論の形で行われるが、必要に応じて教員はプリントなどを用意して補足説明やテーマを発展させるための指導をする。その時、統計学的なデータや実証的研究も紹介するが、特に研究の価値に焦点を合わせる。なお、夏合宿の勉強は、共通のテーマについて、履修者各自が選んだテーマの観点から、検討・議論する形を取る。

【評価方法】 授業への出席参加、後輩の発表への積極的な発言、提案（反応）と、及び授業へ貢献するプレゼンテーションの準備を合格の必要条件とする。演習内容を対象とする筆記試験は行わないが、発表準備のために教員に提出するレジメは、授業参加の基本点とともに、成績を決める基準とする。

【テキスト】 共通のテキストを使わないが、発表の時に使う文献はこの比較教育学演習の参考資料とされる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13601	教育史 B	選	1	2	後期	廣 田 照 幸
他の科目との関連					他学科履修 可	重複履修 不可

【講義内容】 本講義は、社会史・歴史社会学的視点から日本教育史を概観することを目的としている。同時に、近年の西洋教育史研究の展開を踏まえて、西洋教育史のいくつかのトピックについても、併せて講義する。

【講義計画】 以下の内容を講義する。
 (1)問題の所在
 (2)体罰の社会史
 (3)教育＝管理の歴史的構造
 (4)学歴主義の社会史
 (5)家族の社会史

【評価方法】 授業終了後のレポートを重視する。また、出席も評価に加味する。

【テキスト】 指定せず

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13605	教育社会学 B	選	2	2	後期	酒 井 朗
他の科目との関連					他学科履修 可	重複履修 不可

【講義内容】 この講義では、学校という場で生じている種々の問題を社会学的観点からとりあげる。我々が普段自明と考えている事柄に光をあて、そこに潜む問題の性格を理解するのがこの講義のねらいである。講義は受講者に意見発表の機会を与えながら進める。

【講義計画】 具体的に次のような内容を取り上げる。
 ＊学校内部の選抜過程
 ＊学校の組織と文化
 ＊ジェンダーと教育
 ＊カリキュラムの社会学
 ＊教育問題の社会学
 ＊教育社会学の方法論

【評価方法】 1)出席と講義への参加度 2)レポート 3)学期末試験の3つを総合的に判断する

【テキスト】 天野郁夫他『教育社会学』（日本放送出版協会、1994）

（注）旧カリ生は、必修。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13615	教育学特殊講義	選	2～4	2	前期	森 上 優 子
他の科目との関連					他学科履修	重複履修

【講義内容】 外国語学部日本語学科開講科目
33471「日本文化特殊講義ⅠA」を参照。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13616	教育学特殊講義	選	2～4	2	前期	馬 越 徹
他の科目との関連					他学科履修 可	重複履修 可

【副 題】 現代アジアの教育

【講義内容】 近年アジア諸国は「成長のリング（輪）」と呼ばれ、豊かさを生み出す地域へと変身しつつある。本講義では、このようなアジアの活力と教育（人材養成）の関係を、各国の伝統や文化的背景とともに考察する。取り上げる地域（国）は、東アジア（中国、台湾、韓国、北朝鮮）、東南アジア（タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア）、南アジア（インド、バングラデシュ、スリランカ）を予定している。

【講義計画】

1. アジア教育の見方——概説
2. 韓国の教育——教育先進国への道
3. 北朝鮮の教育——チュチェ（主体）思想と教育
4. 中国の教育——社会主義市場経済と教育
5. 台湾の教育——高学歴社会の問題
6. シンガポールの教育——二言語政策の行方
7. マレーシアの教育——ブミプトラ政策と教育
8. タイの教育——仏教的伝統と教育革新
9. インドネシアの教育——多様性の中の統一
10. ベトナムの教育——ドイモイ政策と教育熱
11. フィリピンの教育——多民族・多言語社会の教育
12. カンボジアの教育——戦後復興の教育課題
13. インドの教育——国民統合の教育
14. バングラデシュの教育——教育開発の課題
15. スリランカの教育——エスニシティ・言語・宗教と教育

【評価方法】 ①授業への出席と討論 ②レポート提出、を総合して行う。

【テキスト】 馬越 徹編著『現代アジアの教育——その伝統と変革』（東信堂、1993）＜改正版＞

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13625	教育哲学特殊講義	選	2～4	2	後期	太 田 明
他の科目との関連					他学科履修 可	重複履修 可

【副 題】 「教育学はどのように生まれ変わってきたか」

【講義内容】 古代ギリシャ以来、二千数百年間に人々がどのように教育について考え、研究してきたのかを検討する。教育本質論と教育目的論という二つの観点から、古代以来の教育と教育学に関わる基本的枠組みの「転換」に焦点を当てる。
教育本質論は、時代の基本的な思惟枠組によって規定されている。①自然法的思惟、②歴史主義的

思惟、③人間諸科学による思惟が教育と教育学における基本的な思惟枠組の変化であると言われる。
 ①→②の転換が、いわゆる近代教育思想の形成である。
 しかし、教育の目的論の転換は、この転換に密接に関連してはいるが、完全に対応していない。そのズレが近代の教育と教育学の特徴を生んでいる。
 また、現在では、この近代教育と教育学に対して、現代的な転換が模索されている。
 このような転換の有り様を、検討する。
 もちろん、この「転換」は西欧の教育思想を中心としたものであって、それがそのまま日本の教育と教育学に当てはまるとはいえない。しかし、このような巨視的観点での展望を整理しておくことは個々の専門領域でミクロな微視的なテーマを考察してゆく基礎になる。

- 【講義計画】
1. 講義の概要紹介
 2. 自然法と目的論 (teleology) (1)
 3. 自然法と目的論 (teleology) (2)
 4. 自然法・目的論の「転換」と近代教育思想と(1)
 5. 自然法・目的論の「転換」と近代教育思想と(2)
 6. 自然法・目的論の「転換」と近代教育思想と(3)
 7. 歴史主義への枠組みへ(1)
 8. 歴史主義への枠組みへ(2)
 9. 人間諸科学と教育的価値(1)
 10. 人間諸科学と教育的価値(2)
 11. 近代をこえる教育理論？
 12. 講義の総括

【評価方法】 期末レポートによる。ただし、講義中に資料などを読んだり、発言を求める。

【テキスト】 テキストは使用しないが、次の2点はきわめて有益である：
 クラウス・モレンハウアー『忘れられた連関』（今井康夫訳、みすず書房）
 加茂芳正・矢野智司編『教育のパラドックス／パラドックスの教育』（東信堂）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13631	教育史特殊講義	選	2～4	2	前期	廣 田 照 幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 天皇制、15年戦争と教育

【講義内容】 明治～昭和初期の民衆にとって教育は、いったい何だったのか。平和の問題を考えるためには、なぜ、どのように人々が戦争に駆り立てられていったのかを考察する必要がある。ここでは、戦前期・戦時期の民衆にとって、学校教育はいかなる意味を持っていたのか、その政治的機能に注目しながら、満州事変から太平洋戦争に至る、いわゆる15年戦争と教育との関わりについて考察する。

- 【講義計画】
- (1)問題の所在
 - (2)天皇制公教育制度史の概観
 - (3)国定教科書の問題
 - (4)天皇制と15年戦争
 - (5)戦時体制の担い手たち——陸軍将校
 - (6)戦時体制の担い手たち——教員・憲兵他
 - (7)複数の「歴史像」をどう考えるか？
 - (8)平和と戦争と教育

【評価方法】 授業終了後のレポートを重視する。また、出席も評価に加味する。

【テキスト】 指定せず。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13635	教育社会学特殊講義	選	2～4	2	前期	酒 井 朗
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 ジェンダーと教育

【講義内容】 我々が毎日当たり前のように過ごしている日常生活もちょっと見方を変えてみただけで新鮮なものに感じられてくる。これが社会学の面白さだ。この講義では、こうした社会的な観点を理解するために、我々が普段抱えている、男らしさ・女らしさについての社会的イメージやそれぞれの性に対する役割期待に焦点をあてたい。特にここでは、それらのイメージや役割期待が学校教育や家庭での相互作用を通じてどのように生み出され、我々の生活世界の一部となっていくのかについて考察する。講義では毎回文献を課し、それに基づいて議論を進めていく。

【講義計画】 以下の文献を取り上げる予定である。
 天野正子「『性（ジェンダー）と教育』研究の現代課題」『社会学評論』No.155（1988）
 佐藤洋子『女の子はつくられる——教育現場からのレポート』（白石書店、1977）
 江原由美子編『ジェンダーの社会学』（新曜社、1989）
 木村涼子『ジェンダーと学校文化』長尾彰夫・池田寛編『学校文化』（東信堂、1990）
 杉原名穂子、喜多加実代『「男」と「女」の再生産メカニズム』宮島喬編『文化の社会学』（有信堂、1995）
 廣田照幸「第2部女性の教養と学歴——篠山高女学校を事例として：4章 学校文化と生徒の意識」
 天野郁夫編『学歴主義の社会学』（有信堂、1991）
 N.チョドロウ『母親業の再生産——性差別の心理・社会的基盤』（新曜社、1981）

【評価方法】 講義への参加状況とレポートに基づいて評価する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13641	比較教育学A	選	2	2	前期	Michael Calmano
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 外国と比較して自国の教育は良くなるのか？

【講義内容】 テキスト①を批判的に読みながら、教育学の一分野である「比較教育学」の歴史、理論、主な課題を概説する。諸外国（主にアメリカ合衆国とドイツ）との比較で、日本の教育制度（特に学校教育）の特徴を検討する（テキスト②）。統計学的なデータや実証的な研究にもふれるが、特に科学研究における価値の問題に焦点を合わせる。

【講義計画】 英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半は（多少一方的な）講義になるが、テキスト①を題材にして、履修者のプレゼンテーションも要求する。人数が許す限り、ビデオ、プリントなどを出発点とする、クラス全体あるいはグループによるディスカッションを行う予定だ。

【評価方法】 授業への出席及び簡単なプレゼンテーションを合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、日本と外国の教育事情に関して、履修者が自由にテーマを選んで、比較考察する学期末のレポートを課す。このレポートの成績に授業参加の平常点を加味して成績を決める。

【テキスト】 ①吉田正晴（編）『比較教育学』〈教職科学講座第8巻〉（福村出版、1990）
 ②R.P.ドーア著／松居弘道訳『学歴社会 新しい文明病』〈岩波現代選書〉（岩波書店、1978）
 第1章と第3章（プリントで配布する予定）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13643	比較教育学B	選	2	2	後期	Michael Calmano
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 日本の教育はユニークなのか？

【講義内容】 日本と諸外国（特にアメリカ合衆国とドイツ）の教育制度の違いと共通点を検討する。各国の教育制度を全般的に取り扱うより、現代しばしば注目されている「問題」、すなわち進学と入試制度、しつけと体罰、学校教育における道徳教育、個性と管理教育、教育現場と教育行政、授業と教科書、などについて多面的に検討する。なお、取りあげる具体的なテーマの選択にあたっては、履修者からの希望も参考にする。

【講義計画】 英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半は（多少一方的な）講義になるが、用意するプリントを題材にして、履修者のプレゼンテーションも実施する。人数が許す限り、ビデオ、プリントなどを出発点とする、クラス全体やグループ・ディスカッションを行う。

【評価方法】 授業への出席及び簡単なプレゼンテーションを合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、日本と外国の教育事情を比較する学期末のレポートを課す。具体的なテーマは履修者が自由に選ぶ。レポートの成績と出席点をもとに成績を決める。

【テキスト】 共通のテキストは使わないが、学期末のレポートのために少なくとも一冊の本を批判的に読むことを期待する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13645	比較教育学特殊講義	選	2～4	2	前期	Michael Calmano
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 「教育と差別」

【講義内容】 平等な民主社会を目指す学校教育に潜む『差別』を、主に日本、アメリカ、ドイツの教育の具体例をもって、検討するが、次のようなテーマを取り上げる予定である。
『「偏見」→「差別」→「不公平」の悪循環を破る「教育」？』『「人間観と偏見」「科学と偏見」「同和教育」「教科書が強化するSTEREO TYPE」「性差別』『大学入試の「公平さ」』『プロ・スポーツがもたらす差別』『I. Q. テストと差別』『人種差別と逆差別』『能力別編成』『障害児教育』『宗教と差別』

【講義計画】 外国語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半は（多少一方的な）講義になるが、宿題の形で調べて貰う文献を題材にして、履修者のプレゼンテーションを求めることもある。人数が許す限り、ビデオ、プリントなどを出発点とする、クラス全体やグループ単位のディスカッションを行う。

【評価方法】 授業への出席参加及び簡単なプレゼンテーションを合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、広い意味での「教育と差別」をテーマとする学期末のレポートは、授業参加の基本点とともに、成績を決める基準となる。

【テキスト】 共通のテキストは使わないが、各テーマにプリントを用意する予定である。学期末のレポートのために授業で直接的にとりあげられなかった文献を読むことは期待されている。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13651	教育課程論	選	2～4	2	後 期	Michael Calmano
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 “How To Make A Curriculum”

【講義内容】 アメリカ合衆国の教育学者Ralph W. Tylerの著書を中心にして、教育課程作りの理論的な基礎を検討する。Tyler理論の主なポイント（学校教育の教育目標設定、学習の達成に役立つ学習経験の選択、学習経験の組織、教育課程の効果の評価）を紹介しながら、日本の学校教育の問題点について考える。

【講義計画】 英語で書かれている文章を教材に使うこともあるが、講義は日本語で行う。授業の大半はTylerの著書の日本語訳を題材にする（多少一方的な）講義になるが、履修者のプレゼンテーションも行う予定である。人数が許す限り、クラス全体やグループ・ディスカッションを行う。

【評価方法】 授業への出席参加及び場合によって簡単なプレゼンテーション、を合格の必要条件とする。講義内容を対象とする筆記試験は行わないが、授業の内容に関連するテーマを取り上げる学期末のレポートは、授業参加の基本点とともに、成績を決める基準となる。（具体的なテーマは履修者が自由に選ぶことが出来る。）

【テキスト】 Ralph W. Tyler著、金子孫市監訳『現代カリキュラム研究の基礎——教育課程編成のための』（社団法人日本教育経営協会、1978）この本は厳密な意味での「テキスト」ではないので、これを読むだけでは授業参加に代わるものとされない。むしろ、用意される文献目録から履修者各自がレポート作成のために参考にする本が重視される。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13655	教育制度論	選	2～4	2	後 期	酒 井 朗
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 中学校教育を考える

【講義内容】 中学をとりまく現代社会の変化をふまえながら、中学校をめぐる問題とは何か、そしてそれを解決するためには我々は何を考えるべきかについて検討する。将来、中学校の教師になろうと思っている他学科の学生にも広く受講をよびかけたい。

【講義計画】 以下の諸問題について検討する。文献集録を配布するので、受講者は毎回課題文献に目を通してくこと。受講者が比較的少ない場合は、演習形式をとる予定である。
 学校段階の中での中学校の位置づけ
 各国の中等教育改革
 私立中学校VS公立中学校
 登校拒否／いじめ問題
 中学生の進路展望
 中学校教師の多忙な日々
 観点別評価の問題点とは何か
 クラブ活動の意味と問題
 習熟度別学級編成の功罪
 かわる高校入試

【評価方法】 講義への参加状況とレポートに基づいて評価する。

【テキスト】 文献は一括して印刷した上で受講者に配布する予定である。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13671	子ども・青年論	選	2～4	2	後期	廣 田 照 幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 試験と選抜の社会史

【講義内容】 近代日本における青少年は、学歴主義の社会全体への拡大とともに、試験と選抜による競争にまき込まれていった。大正時代にはすでに「試験地獄」という言葉が生まれ、戦後は、あらゆる社会階層の青少年が試験を目指した受験教育に駆り立てられることになった。本講義は、1980年代以降研究が進展してきている、「学歴主義の社会史」研究のいくつかの文献を講読することを通して、近代教育システムと青少年の日常生活との関連、選抜システムの日本の特質などを考察することを目的としている。最後に、日本だけでなく、世界の他の国の教育システムにおいても広がっている学歴主義を、単に日本特有の事情からではなく、近代産業社会における共通の問題としてどのように考えるかという点について考察する予定である。

【講義計画】 最初に問題の所在を概説した後は、主として、文献の講読と参加者による討議を中心に進める。細かい日本史の知識は必要ないが、かなり速いペースで講読を進めようと思っているので参加者は覚悟が必要である。また、本代をケチる人には不向きである。

【評価方法】 授業中、および終了後のレポートを重視する。また、出席も評価に加味する。

【テキスト】 天野郁夫『試験の社会史』（東京大学出版会、1983）¥2,200
乾 彰夫『日本の教育と企業社会』（大月書店、1990）¥2,600
斉藤利彦『試験と競争の学校史』（平凡社、1995）¥2,163他

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13675 ～ 13678	実験心理学Ⅰ・Ⅱ	選	2	各2	前期 後期	神 谷 俊 次
他の科目との関連	心理系の演習に進む者は履修することが望ましい			他学科履修	不可	重複履修 不可

【副 題】 心理学基礎実験

【講義内容】 心理学的研究を行う場合、研究方法を理解しておくことが必要不可欠である。この授業では、心理学的研究方法の中の実験法と観察法について、実習を通じて理解、習得することを目標とする。

【講義計画】 実験心理学Ⅰ
(1)心理学研究法…実験法に関する解説
(2)心理現象の科学的測定
(3)実験の進め方…ミュラーリエル錯視、鏡映描写、系列位置効果、要求水準を取り上げ、小グループによる実験実習、データの分析、レポートの作成、研究発表を行う
実験心理学Ⅱ
(1)心理学研究法…観察法に関する解説
(2)観察実習テーマに関する討論
(3)観察研究…観察の実施、データの分析、研究発表
(4)心理学実験のペアによる実習

【評価方法】 出席を重視する（無断欠席、遅刻は許されない）。
実験心理学Ⅰ…レポート4回、研究発表による。
実験心理学Ⅱ…レポート6回、観察結果発表による。

【テキスト】 『心理学実験マニュアル』を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13681	人格心理学A	選	2	2	前期	長谷川雅雄
他の科目との関連	人格心理学B履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 昨年度履修者に限り可

【副 題】 人間の心とは何かを考える〈入門編〉

【講義内容】 人間の「心」あるいは「人格」ほど、パラドックスに満ち、複雑でつかみにくいものはないといっ
てよいだろう。しかし、だからこそそれについて少しでも深く考えてみる価値があるのではないだ
ろうか。

本講は深層心理学、臨床心理学の入門編としての性格を合わせ持っており、心理的危機状態にあ
る人の心や人格について検討することを中心にして進めていく。というのも、健全な人と危機に陥っ
ている人との心や人格は、全く異なる別々のものではなく、そこには多くの共通性が潜んでいるか
らであり、臨床的視点からは人間の心や人格をより深く理解するための有力な方法であるためであ
る。

具体的には、まず心身症やプラセボなどの心身相関の問題をとりあげ、「身体」を通して「心」
の不思議な動きや働きをみていく。続いて、人が心理的危機に陥るといったどのような状態にな
るのかを、事例を示しながら具体的に述べる。ここで扱うのは、不安、強迫、離人体験、幻覚、妄
想などであるが、単に状態像の説明だけでなく、精神病理学や精神分析学が人の「心」や「人格」
をどのようにとらえているかを、事例や症状など具体的な対象に則して实际的に述べる。また心理
的援助（心理療法）の基礎的な考え方にも触れながら、人間の「心」や「人格」とは何かについて
考えていく。

【講義計画】 講義形式で行うが、受講者の積極的な質問を歓迎する。また、時間の許す範囲で、心や人格に関
する自由討論の場を設けたいと思っている。

【評価方法】 定期（筆記）試験、小レポート、出欠席によって評価する。

【テキスト】 とくに指定しないが、参考図書として以下の二冊を挙げておく。

- 1)加藤義明他編『入門人格心理学』（八千代出版）
- 2)清水将之他編『青年期精神衛生事例集』（星和書店）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13683	人格心理学B	選	2	2	後期	長谷川雅雄
他の科目との関連	人格心理学Aの続編			他学科履修	可	重複履修 昨年度履修者に限り可

【副 題】 人間の心とは何かを考える〈続・入門編〉

【講義内容】 人格心理学Aと同様の方針により、種々の臨床的事項を通して、人間の「心」や「人格」につい
て考えていく。本講では、数多い心の病いのなかから重要なものを選んでとりあげる。神経症、人
格障害、うつ病、精神分裂病などの病態について、それぞれにみられる人格特徴や精神力動、家族
関係の様相などを具体的に示しながら、健全な「心」や「人格」についても理解を深めていく。

【講義計画】 人格心理学Aと同様の形式で行う。

【評価方法】 学期末に筆記試験を行なう。それに、小レポートや出欠席を加味して評価する。

【テキスト】 人格心理学Aと同じ。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13685	発達心理学A	選	2	2	前期	伊藤美奈子
他の科目との関連	発達心理学B履修のための前提科目			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 発達心理学からとらえた青年期

【講義内容】 本年度は、とくに青年期の発達に焦点をあて、いろいろな角度から青年期の発達を論じる。また、必要に応じて、青年期に先行する乳児期から学童期、後続する成人期から中年期にかけての発達についても概観する。

【講義計画】 青年心理学の入門編
 1. 青年心理に関する諸説・・・青年期とはどんな時代か？
 2. 青年期の人格形成
 a 自己意識・・・自己への目覚め、アイデンティティ、ペルソナと本来の自分
 b 親子関係・・・心理的離乳、依存か自立か？
 c 友人関係・・・群れ志向と孤独感、近頃の友人関係
 d 性役割形成・・・男らしさ・女らしさ、性の受容
 e 社会参加・・・進路選択、職業意識の発達、フリーターと転職願望

【評価方法】 学期末に試験、あるいはレポートを課す予定。出席は原則的に重視したい。

【テキスト】 授業中に適宜プリントを配布するが、次の本を参考文献として挙げておく。
 落合良行・伊藤裕子・斉藤誠一『ベーシック現代心理学4（青年の心理学）』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13687	発達心理学B	選	2	2	後期	伊藤美奈子
他の科目との関連	発達心理学Aの後編			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 青年期研究に基づく自己分析と、青年期の精神病理

【講義内容】 前期に行った青年心理の講義内容をふまえ、これまで行われてきた青年期研究の知見を紹介する。さらに、それらの研究に則った形で自己分析を行う。

【講義計画】 前半に取り上げるテーマ：自己探求課題
 1. アイデンティティ、自己意識と他者意識、自己認識欲求、自尊感情
 2. 独立意識（親への依存と独立・反抗）
 3. 友人関係（孤独感と親密性、山あらしのジレンマ）
 4. 将来展望（時間的展望、進路選択）
 後半に取り上げるテーマ
 対人恐怖、スチューデント・アパシー（無気力）、神経性無食欲症（アノレキシア・ネルボーザ）、成熟拒否、ふれあい恐怖

【評価方法】 学期末に試験、あるいはレポートを課す予定。出席は原則的に重視したい。

【テキスト】 授業中に適宜配布するが、次の本を参考文献として挙げておく。
 落合良行・伊藤裕子・斉藤誠一『ベーシック現代心理学4（青年の心理学）』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13691	発達心理学特殊講義	選	2～4	2	前期	後 藤 宗 理
他の科目との関連	発達心理学Aの展開科目			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 乳幼児期の発達心理学

【講義内容】 本講義では、人間の発達過程のうち、誕生から幼児期までの心理的発達について講義する。発達のそれぞれの時期における心理的特徴を概観するとともに、子どもをとりまく多様な環境について理解を深めることを目的とする。とくに、母親、父親、きょうだい、仲間、保育者との関係の様相についてとり上げたい。

なお、夏休みのはじめに保育園見学を予定している。

- 【講義計画】
1. 乳幼児理解のための行動観察の重要性
 2. 乳幼児の発達における「遺伝と環境」の考え方
 3. 発達における環境としての<ひと>と<もの>
 4. 胎児の環境と母体
 5. 新生児期と母性
 6. 父親意識の形成と子ども
 7. VTR「父親からのメッセージ」視聴
 8. アタッチメントについて
 9. 子どもの個性
 10. 日本人のしつけと教育
 11. 乳幼児期の遊び
 12. 乳幼児の社会的世界

【評価方法】 学期末に筆記試験を行う。

【テキスト】 佐藤真子編『乳幼児期の人間関係』（培風館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13692	発達心理学特殊講義	選	2～4	2	後期	後 藤 宗 理
他の科目との関連	発達心理学Aの展開科目、発達心理学特殊講義(前期)の続編			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 児童期の発達心理学

【講義内容】 本講義では、人間の発達過程のうち、児童期の心理的発達について講義する。児童期の心理的・身体的特徴を概観するとともに、子どもをとりまく多様な環境について理解を深めることを目的とする。とくに、両親、きょうだい、仲間、教師との関係について取り上げるとともに、小学生をとりまく教育的環境の問題について触れたい。

なお、発達心理学特殊講義（前期）を受講していなくても受講できる。

- 【講義計画】
1. 児童期とはどのような時期か
 2. 児童期の身体発達と心理的問題
 3. 学校の役割
 4. 教師と子どもの人間関係
 5. 現代の家庭のすがた
 6. 家族関係と子どもの発達
 7. 仲間関係と子どもの社会化
 8. 子どもの生活と仲間関係
 9. 現代の学校がかかえる問題
 10. 現代の家庭がかかえる問題
 11. 現代の仲間と生活がかかえる問題
 12. 児童期の発達についてのまとめ

【評価方法】 学期末のレポートによって評価する。

【テキスト】 小石寛文編『児童期の人間関係』（培風館）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13695	精神保健学A	選	2～4	2	前期	長谷川雅雄
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 心の健康とは何か

【講義内容】 精神保健学は、メンタル・ヘルスに関する広範な領域を擁するものであるが、本講ではまず最初に、もっとも根本的な問題である「正常」と「異常」の概念をとりあげ、心の健康とは何かについて考える。

次に、これと関連の深い「適応」と「不適応」の問題を扱う。臨床的事例を挙げ、心のなかに潜んでいるさまざまなパラドックスに着目しつつ、「健康」と「不健康」について具体的に探求していく。この際、精神病理学的見地からだけではなく、社会精神医学、文化精神医学の知見も加えながら、多面的な考察を試みる。

さらに、社会問題化している「不登校」や「いじめ」などの、学校における種々の心理的問題を、精神保健学の立場から考えていく。

【講義計画】 上記内容の順序にしたがって、講義形式で進めていく。心の健康の問題は、誰にとっても無関心ではいられないことがらであり、各自がさまざまな疑問や考えをいだいたりするはずである。このような疑問や意見を互いに表明し合うことで、理解が一層深まっていくことが期待される。そこで、適宜「自由討議」の時間を設け、受講者の質問、意見、感想など求め、討論を行う（自発的表明が少ないときは、当方で指名する）。また、折りにふれて小レポートを課す予定である。

【評価方法】 定期試験並びに小レポートによって評価するが、出欠席も重視する。

【テキスト】 テキストはとくに指定しない。ただし、講義で扱う内容に則して、そのつど初学者にも理解しやすい参考図書や文献、あるいは関連ある文学作品などを種々紹介するので、できるだけそれらを読んでほしい。また、必要に応じ、参考資料としてプリントを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13701	精神保健学B	選	2～4	2	後期	長谷川雅雄
他の科目との関連	精神保健学Aの続編				他学科履修	可 重複履修 不可

【副 題】 発達から見た心の「健康」

【講義内容】 心の健康を考えるうえで、発達の視点もきわめて重要であることは言うまでもないだろう。発達の視点は、人間の心を、歴史的・経時的にとらえようとするだけでなく、家族や周囲の人たちとの「関係」のありようのなかで理解しようとするものである。

ここでは、臨床家によって重視されている種々の精神分析的発達論を解説しながら、乳児期から思春期にいたるまでの心の発達と、発達の障害とに焦点を当てる。ただ、ともすると発達理論には抽象的にすぎる味気無さがないとはいえないので、臨床事例や、児童文学、絵本などをおり混ぜながら、発達にまつわる「関係」の力動性を具体的にみていくことにしたい。

【講義計画】 精神保健学Aと同様、ときに応じて「自由討議」を行う。また、小レポートも課す予定である。

【評価方法】 定期試験、小レポート、出欠席によって評価を行なう。

【テキスト】 とくに指定しない。本講に直接関連する領域は、精神分析学、乳幼児精神医学、児童精神医学、思春期精神医学などであるが、これらの膨大な文献や参考書のなかから、とくに重要なものや、興味深くわかりやすいものを、講義内容にそってそのつど紹介する。また、参考資料としてプリントを適宜配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13705	学習心理学	選	2～4	2	前期	杉 江 修 治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修可

【副 題】 学校学習の展開

【講義内容】 この授業では、教授学習の心理テーマとして進める。教育現場で実際に実践されている様々な学習指導法を、その背景にある原理、典型的なモデル、実践事例から理解していく。ここでは、実証的研究の基礎と応用との関わりについても考えることになる。

【講義計画】 次のような内容を扱う。
「発見学習」「仮説実験授業」「完全習得学習」「プログラム学習」「オープン・エデュケーション」「習熟度別指導」「バズ学習」「集団主義教育」「CAI」「チーム・ティーチング」…
授業はいわゆるレポート方式で行なうが、レポーターは、学んだことに単に報告するという形ではなく、それぞれのテーマでどんな論点があるか、課題の提起を行ない、論議のための材料を提供し、討論の司会をするという仕事をする。また、指導の実際を知るためにビデオによる学習も行なう。

【評価方法】 授業の最後に課題を出し、それに関するレポートの内容で評価する。あわせて、授業でのレポーターとしての活動を加味する。

【テキスト】 授業の都度、参考書を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13706	学習心理学	選	2～4	2	後期	杉 江 修 治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修可

【副 題】 こどもをとりまく学習環境

【講義内容】 この授業では、実験的、基礎的な学習心理学の理論紹介などは行なわない。こどもの学習を支える社会、文化的な状況を、教育心理学的な視点から検討する。様々な現実の教育的課題を考察していきたい。そのことを通して、こどもたちにとってよりよい学習環境づくりとは何かについての認識を深めたい。

【講義計画】 次のような内容を扱う。
「遊び」「家庭」「学級」「教師」「部活」「学力」「教育政策」「塾」「地域」「マスコミ」「早教育」「若者文化」…
授業はいわゆるレポート方式で行なうが、レポーターは、学んだことに単に報告するという形ではなく、それぞれのテーマでどんな論点があるか、課題の提起を行ない、論議のための材料を提供し、討論の司会をするという仕事をする。

【評価方法】 授業の最後に課題を出し、それに関するレポートの内容で評価する。あわせて、授業でのレポーターとしての活動を加味する。

【テキスト】 授業の都度、参考書を紹介する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13711 13713	心理教育統計学Ⅰ・Ⅱ	選	2～4	各2	前期 後期	野 口 裕 之
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修可

【講義内容】 心理学・教育学の実験・調査研究を行なう際に必要となる統計的方法の基本的な技法及び考え方について解説する。心理教育統計学Ⅰでは得られたデータの特徴を記述する為の統計的方法を、Ⅱでは得られたデータを基により一般的な結論を導く為の統計的方法を取り上げる。さらに余裕があれば項目分析、古典的テスト理論など心理教育統計学に固有の話題も取り上げる予定である。ⅡはⅠの履修を前提とする。特に理由がない限り、ⅠとⅡの両方を連続して履修することが望ましい。

【講義計画】 Ⅰでは、平均・分散・標準偏差・相関係数・その他の関連性を表わす指標・直線回帰について取り上げる。さらに余裕があれば多変量解析法の中から、重回帰分析と因子分析を取り上げて、それらの記述統計的な側面について解説する。
Ⅱでは、確率に関して簡単な復習を行なった後、確率変数と確率分布・標本分布・仮説検定の考え方・仮説検定の実際について解説する。Ⅰと違ってⅡでは「考え方」「あるいは」「道筋」をじっくりと理解してもらうことを目標にする。従って、具体的な仮説検定の方法は精選して取り上げることになる。

【評価方法】 主として筆記試験によるが、一定の条件を満たした者には平常点を加味して評価する。詳細は授業時に説明する。

【テキスト】 特に指定せず、講義時に教材を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13731	社会心理学	選	2～4	2	前期	吉 田 俊 和
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 昨年度履修したものは不可

【講義内容】 個人が他者に対して、どのように自分を見せようとするのか、他者とのコミュニケーションにおいて、ノンバーバルコミュニケーションはどのような役割を果たしているのかについて概説する。また、他者の存在が個人の課題遂行や意思決定に対して、どのような影響をもつかについても論じる。さらに、個人とより大きな社会との関わりについても述べる。

【講義計画】 1～3. 自己呈示、自己開示
4～6. 対人コミュニケーション
7～10. 社会的促進、社会的手抜き、集団意思決定
11～14. マス・コミュニケーション、流行現象

【評価方法】 定期試験

【テキスト】 大坊郁夫・安藤清志編『社会の中の人間理解』（ナカニシヤ出版）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13732	社会心理学	選	2～4	2	後期	廣 岡 秀 一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 社会的環境の理解過程

【講義内容】 社会生活を営んでいる人間に焦点を合わせ、個々人の内的な心理プロセスを考えることから発して、他者との関係や集団や社会の中にいる人間の認知活動および社会的行動を考える。特に、日常的に遭遇する社会的場面をわれわれ人間はどのように理解しているのか、日々出会う他者をいかに理解しているのかといった社会的環境の認知に関わる問題を中心的なテーマとした講義を行う。

【講義計画】 1. 社会心理学の目的と特徴
2. 人間行動の社会心理学的探求法
3.
↓ 近くに及ぼす社会的影響
4.
5.

- ↓ 対人認知
7.
8.
↓ 帰属過程
9.
10.
↓ 社会的態度の形成・維持・変容
12.

【評価方法】 定期試験（筆記）

【テキスト】 使用しない

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13735	認知心理学	選	2～4	2	前期	神 谷 俊 次
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 認知心理学では、人間の情報処理活動に関するさまざまな問題が取り上げられて研究が行われている。この授業では、日常場面における素朴な疑問を認知心理学がどのように解明しようとしているのかを理解するために、いくつかのテーマを取り上げて検討していく。

【講義計画】 (1)心理学における認知心理学の位置づけ
(2)認知心理学的研究の枠組み
(3)個別テーマとして以下のような内容を扱う予定

- ・事故の目撃
- ・感情的な出来事
- ・約束を忘れる
- ・文章を理解する
- ・自分が分かっていることが分かる
- ・気がつかずに影響を受ける

【評価方法】 出席、研究発表、レポート課題により評価する。

【テキスト】 必要に応じてプリント資料を配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13741 13745	調査・測定法Ⅰ・Ⅱ	選	2～4	各2	前期 後期	伊 藤 美 奈 子
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 質問紙調査法

【講義内容】 人間理解のための心理測定の考え方や方法について理解を深める。特に、心理測定においても一般的な質問紙調査法の特徴について理解し、簡単な質問票の作成、データの収集、分析を試みる。3、4年生で質問紙調査によるアンケート調査を実施する予定の3年生を主な対象とする授業である。受講生は、心理教育統計学Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。

【講義計画】 調査・測定法Ⅰ
(1)心理学における心理測定の実際…『教育心理学研究』から関連する論文を精読
(2)質問紙調査法に関する解説…質問紙の形式、質問紙の作成手順、作成上の注意事項
(3)質問質問紙の作成…テーマに関する討議、質問項目の検討、実施計画の立案
調査・測定法Ⅱ
(1)調査の実施
(2)コンピュータ実習…使用方法、統計解析プログラム
(3)調査データの分析…項目分析などの分析方法、信頼性、妥当性に関する講義、分析実習

(4)まとめ…報告書の作成、結果の発表会

【評価方法】 調査・測定法Ⅰ：論文発表、レポート、出席などに基づいて評価する。
調査・測定法Ⅱ：出席、および最終報告書によって評価する。

【テキスト】 必要に応じて資料を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13751	臨床心理学	選	3・4	2	前期	長谷川雅雄
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 青年期の臨床(1)

【講義内容】 青年期は、心理発達上重要な時期であるだけでなく、臨床心理学の立場からみても、他の時期以上に心理的問題が生じやすく、それらをどのように理解し、またいかに心理的援助をしていくかという点できわめて重要な意義をもつ時期である。
本講では、つねに一般（健常）の「青年期心性」との関連を失うことがないように目を配りながら、青年期の臨床的問題を扱っていく。
前期では、最初に青年期臨床の基礎的な考え方について講じた後、「対人恐怖」を取りあげ、その精神病理学的理解と心理療法について詳しく検討する。その際、一般の対人緊張や対人不安との関連も重視しながら考えていく。
なお、すでに人格心理学A、Bを履修していることが望ましい。

【講義計画】 講義形式と、文献購読による発表・討論形式とをおり混ぜながら進めていく。後者の場合、発表者は指定文献のレジュメ（内容の要旨だけでなく、疑問点や自身のコメントを必ず書き添えること）を作成し、受講者全員に配布して発表する。そのうち、他の受講者も疑問点や意見を出し合い、全体討論を行なう。

【評価方法】 レポート、発表、出欠席によって評価する。

【テキスト】 プリントを配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13752	臨床心理学	選	3・4	2	後期	長谷川雅雄
他の科目との関連	臨床心理学（前期）の続編			他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 青年期の臨床(2)

【講義内容】 前期に引き続いて、青年期の臨床問題を扱う。不食や過食などの摂食障害、スチューデント・アパシー（退却神経症）、同一性障害などについて、病態の理解と心理的援助に重点を置きながら進めていく。

【講義計画】 前期と同様のやり方で行う。

【評価方法】 レポート、発表、出欠席によって総合的に判断する。

【テキスト】 プリントを配付する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13755 13761	心理臨床検査法Ⅰ・Ⅱ	選	3・4	各2	前期 後期	池 田 豊 應
他の科目 との関連	ⅠとⅡの両方を履修することが望ましい。			他学科 履 修	可	重 複 履 修

【副 題】 さまざまな心理検査による自己分析

【講義内容】 Ⅰでは、まず、心理臨床検査を実施するにあたって、要請される心理臨床家としての基本的態度について説明し、検査実施の意味と目的について検討する。次に、現在臨床場面で一般に行われている代表的な描画法や投映法について概説する。

受講生はこれらの心理検査について、演習の中でみずから経験しつつ、その理論や実施法、解釈法について習得することになる。

なお、これらの心理検査は、将来、臨床に携わったときに役立つだけでなく、心理学の具体的な「研究方法」であるので、今後の卒業研究等における接近方法としても大いに活用しうるものである。

Ⅱではもっぱら、投映法の中でも、習得がもっとも難しいとされているロールシャッハ法を取りあげ、その実施法、分析法、解釈法について、演習形式での学習をすすめることにしたい。被検者を実施する練習も行いが、最終レポートは自分自身の検査記録にもとづく「自己分析」の試みとする。

【評価方法】 その都度の演習課題にのぞむ態度、およびそれに関する小レポート、出席状況、最終レポートの内容から、総合的に評価する。

【テキスト】 池田豊應編『臨床投映法入門』（ナカニシヤ出版、1995）¥2,800

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
13765	教育総合講義	選	3・4	2	後期	廣田照幸 酒井 朗 Michael Calmano 長谷川雅雄 伊藤美奈子
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修

【副 題】 〈家族〉

【講義内容】 本講義は、ある特定のテーマに関して、教育学・心理学のさまざまな専門領域から、それぞれのアプローチによって考察・検討を加えようとするものである。こうした方法を通じて、一つの問題に対する多角的な学問的接近のあり方を学ぶとともに、各自の問題意識に基づいた活発で積極的な討議を行いたい。

本年は〈家族〉をテーマとして取り上げ、われわれが直面する〈家族〉の諸問題について、担当者独自の多様な視点から討論していく予定である。

【講義計画】 本講義は5人の担当者がそれぞれ2回ずつ講義を行う。シラバスを講義の最初に配布するので、詳細はそちらを参照されたい。講義の最後には担当者全員が出席してのディスカッションの機会も設けるので、受講者の積極的な参加を期待したい。

【評価方法】 出席状況とレポートの内容を総合的に判断する。

【テキスト】 使用しない。

（注）旧カリ生は、4年生必修科目。